

株式会社カワタ

2023年3月期 決算説明会

質疑応答 Q & A

(今回は、説明会会場およびウェビナー形式にて質疑応答を実施しております。)

2023年6月9日

決算説明会（2023.6.9）質疑応答Q & A

Q: リチウムイオン電池について、具体的な数字ではなくて良いが、23/3期のスーパーミキサーの受注規模感は1年前と比べてどれだけ増えたと感じているか。

A: 詳しい数字の持ち合わせはないが、受注ベースで1年前と比べると若干上がっている、10%程度ではないかと思う。

リチウムイオン電池の中で、正極材が弊社の関わっている部分である。スーパーミキサーの引き合いを頂戴しているのは、正極材を製造しているエンドユーザー、納入地は大半が中国である。22/3期と23/3期を比較すると、引き続きEV需要について中国政府の後押しがあり、もともと高い水準で納入実績があった。そのため、伸び率という点では低いと見えるところもあると思うが、もともと高い水準であったと認識いただきたい。

Q: 他の押出成形機メーカーでは大口の受注が入ってきているようだが、御社の場合は若干遅れている感じか。

A: 日本の押出成形機メーカーについてのことをおっしゃっていると思うが、当社も比較的伸びはあるものの、スーパーミキサーについては以前より高水準で販売・受注を受けており、伸びという点では1割程度と認識している。また、押出成形機は主にセパレータフィルムの製造過程で使われており、スーパーミキサーの動向と必ずしも一致しない。

(続く)

決算説明会（2023.6.9）質疑応答Q & A

（続き）

Q: 24/3期の受注計画のイメージについて教えて欲しい。

A: 射出成形機関連は足踏み状態だが、押出成形機関連と材料供給のシステムは堅調に推移している。現時点では昨年度並みの受注は確保できている。

Q: 貴社の四半期受注は期ごとに凸凹が続いている。24/1Qは23/4Qよりも受注が増えてくるはずだが、射出成形機関連の受注が厳しいので、射出成形機関連の受注は下がるとみているか、それとも下がりきって今後は上がるとみているか。

A: 今が下限と考えている。射出成形機関連の見積り依頼は増えている。

Q: EV関連で売上が伸びているという話だったが、それほど収益性が良くないニュアンスも感じられた。どういった構造になっているのか。また、経営戦略の箇所でもEV関連は伸びるとおっしゃっていたが、収益性を今後どう変えていくのか。

A: 収益性が悪いように聞こえたのであれば、誤解を招いたのかもしれない。従来の事業、既存の機器に比べると、EV関連は、伸びている分野ではあるものの、最終ユーザーの価格競争が厳しく、各設備メーカーに対する価格要求が厳しくなっているのは事実である。その中で、既存の機器に比べると若干収益性は低いですが、伸びは見込めるので、しっかりと対応していきたい。設計や部材の見直しによりコストダウンは図っている。

（続く）

決算説明会（2023.6.9）質疑応答Q & A

（続き）

Q: 将来的にはどのように改善していくのか。

A: 今はいろいろなものが値上がりしているが、それが落ち着いてくる。部品のスペック、仕様、メーカーの見直しによりコストダウンを図っていく。販売価格についてもできるだけ調整していき、収益性の改善を図っていきたい。

Q: これは納期が長くて、原材料価格が上がる前に受注を取っていたから収益性が悪いのではなくて、価格競争が厳しく、採算化が難しくなっているということか。

A: 正直なところ、両方ある。

Q: 原材料価格の上昇分を価格転嫁をして、採算を取るというのは難しいのか。

A: これはEV関連に限らずだと思うが、伸びていく分野については、競争が激しくなる傾向がある。当社は技術力で強みを発揮していく必要があるので、他社にはない付加価値を作り上げていきたい。

Q: 電池関連は、日本と中国両方にお客様がいて、どちらも正極材とセパレータフィルムのお客様がいるという認識でよいか。

A: 正極材は主に中国である。いわゆる中国のローカルメーカーがほとんどである。

（続く）

決算説明会（2023.6.9）質疑応答Q & A

（続き）

- Q: DOE・配当に関して質問したい。DOE2.5%というのは、来年以降も貴社としては守っていくべき水準という意味か。
- A: 長期的にはDOE2.5%の安定確保が目標である。ROEは8%を目安にしているので、望ましいのは毎年両立していくことだと理解している。ただ、様々な要因でいずれかが満たさない年もあるかと思う。大きな流れとしては、DOE2.5%を目安にすれば、毎年利益を伸ばしていくと、配当金額は上がっていくと考える。26/3期にROE8.7%でDOE2.5%を維持しようとするれば、今の配当水準は超えると思う。
- Q: 事業環境について、年初と比べてどう変わったと認識しているか。
- A: 射出成形機関連は昨年末からあまり良くないと認識している。押出成形機関連及びそれ以外のシステム関連について、国内では、新規のシステム案件が少ないときは改造や小さい更新が増える。景況感は楽観できる環境ではないが、目標達成に向けて取り組んでいきたい。
- Q: 年初に比べてどのような景況感か。
- A: 昨年11月以降、射出成形機関連の景況感が少し良くないが、この辺りが底になると感じている。押出成形機関連の案件は堅調な引き合いをいただいております、全体としては問題ないとみている。

（了）

● お問い合わせ先

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。